

あいかわ

相川地区

(新潟県佐渡市)

- 計 画 期 間 平成19年度～平成23年度
- 面 積 147ha
- 交付対象事業費 547百万円
- 市人口 52,467人

ポイント

金山の繁栄と歴史を色濃く残す町 相川、
世界遺産登録を目指す町 相川、
ホスピタリティ溢れる散策観光のまちづくり

地区概要

世界遺産登録を目指す町として、点在する史跡並びに観光スポットの整備を進め、観光誘客の増加を図る。

目 標

金山文化遺跡群の魅力創出と施設の集客力向上を図り、散策型観光地としての整備と住民を主役としたもてなしの環境づくりを進めることで、街中での観光交流を創出し、観光誘客の増加と中心市街地の活性化を図る。

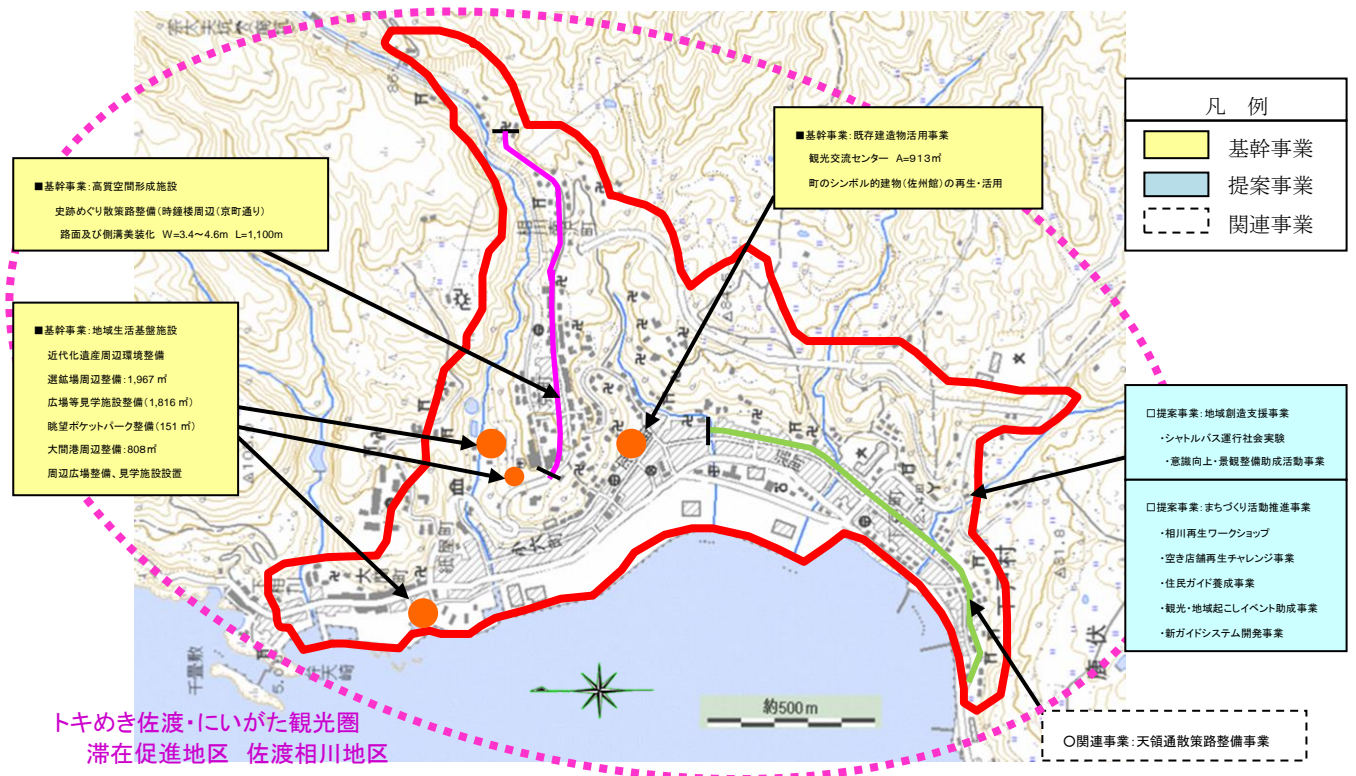
指 標

散策型観光地としての整備による観光誘客の増加と地域住民主体のホスピタリティ向上を、地域内の観光客入込み数と住民ガイド利用数で確認する。

項 目	現況値 (年)	→ 見込み値(年)	→ 実績値(年)
相川地区観光入込客数	約 490,000 人(H18)	→ 520,000 人(H23)	→ 319,000 人(H23)
住民ガイド利用客数	約 1,600 人(H17)	→ 3,200 人(H23)	→ 4,388 人(H23)

事業内容

基幹事業 (431.9 百万円) → 高質空間形成施設 (史跡めぐり散策路整備事業 1 路線 1,100m 路面美装等)。地域生活基盤施設 (近代化遺産周辺環境整備事業 3 箇所)。既存建造物活用事業 (1 施設)。
提案事業 (115.1 百万円) → 相川再生ワークショップ、空き店舗再生チャレンジ事業、住民ガイド養成事業、観光・地域起こしイベント助成事業、新ガイドシステム開発事業、シャトルバス運行事業、意識向上・景観整備助成活動事業 等



地区の現況と課題

史跡を巡る散策ルート整備に加えて、住民自らが行う景観整備に対し整備費の補助を行うことにより、まちづくりに対する意識の向上や、景観に合ったまちなみが形成された。その結果、これら双方が相まって住民ガイド利用者が大幅に増加するとともに、既存イベントの当該参加者が大幅に増加した。

今後は、「金銀山文化遺跡は我が町の宝」という意識をさらに向上させるとともに、世界遺産登録に向けての外来客をもてなす環境づくりの更なる向上が課題である。

提案事業の特徴

相川再生ワークショップ

地域には地域コミュニティの推進と地域活性化を目指す地域おこしグループが数団体存在し、それぞれに活動を展開している。まちづくり交付金事業の実施を契機にこれらのグループが有機的に結合し、あらゆるまちづくり活動の主体として活動を実践する。

住民ガイド養成事業

観光客へのもてなしと地区のアピールをかねて、住民有志グループと中学生による散策ガイドが実施されているが、この活動を助成し、より発展・拡大させることで観光客と地域住民の交流を促進する。

観光・地域起こしイベント助成事業

地域では、観光誘客に資するイベントや地域の活性化を目的としたイベントなど、新規イベントの創出や既存イベントのリニューアルなどへの要望と実現への気運が高まっている。

こうしたアイデアをまちづくり活動とリンクさせることで、住民発案の具現化と地域の活性化の相乗効果を図る。

意識向上・景観形成助成事業

散策型観光に対応すべく魅力ある街並み形成への取組みとして、住民自らが行なう住宅等の景観整備に対する費用の一部を助成し、地域一体となったまちづくりへの意識向上を図る。

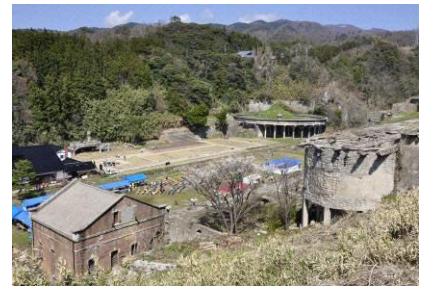
計画策定プロセス

まちづくり事業の継続と集中投資による効果

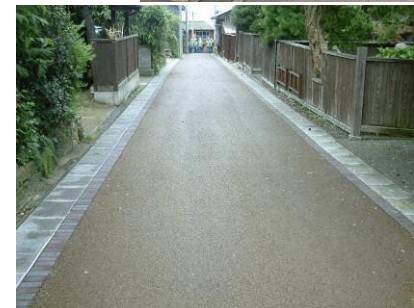
当地区は、合併以前の相川町時代から金山文化を色濃く残す町としての様々なまちづくり事業が展開されてきた。こうした施策のコンセプトを継承しつつ、まちづくり交付金事業による集中投資によって事業の飛躍的進展を推進することで中期的な事業効果の増大を図る。

住民が主役のまちづくり

まちづくり事業の推進には地域住民の参画・協働が不可欠であり、当地区では、地域の各界並びに有志による「相川まちづくり実行委員会」が組織され、地域の声を拾い上げ、コンセンサスを得ながら事業を推進する体制の構築を図っている。



▲明治初期に建設された「近代化遺産」。金鉱石の精錬所跡地（上）と積出港だった大間港（下）



▲史跡めぐり散策路 整備前(上)、整備後(下)



▲まちづくり活動の拠点とまちなみ調査